

# 熊本赤十字病院が担う 役割について

平成 3 0 年 3 月 熊本赤十字病院

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

基本理念 人道・博愛・奉仕の精神をもって医療を実践します

基本方針 救急医療、高度医療、教育研修、地域連携、医療救援

使 命 高度急性期を担う総合病院として、地域住民が安心して暮らせる社会に貢献します

病床数 一般490床

診療科 28科

内科、血液・腫瘍内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、乳腺内分泌外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、救急科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、精神腫瘍科

入院料等 7対1入院基本料、小児入院医療管理料、救命救急入院料  
特定集中治療室管理料、小児特定集中治療室管理料、総合入院体制加算 等

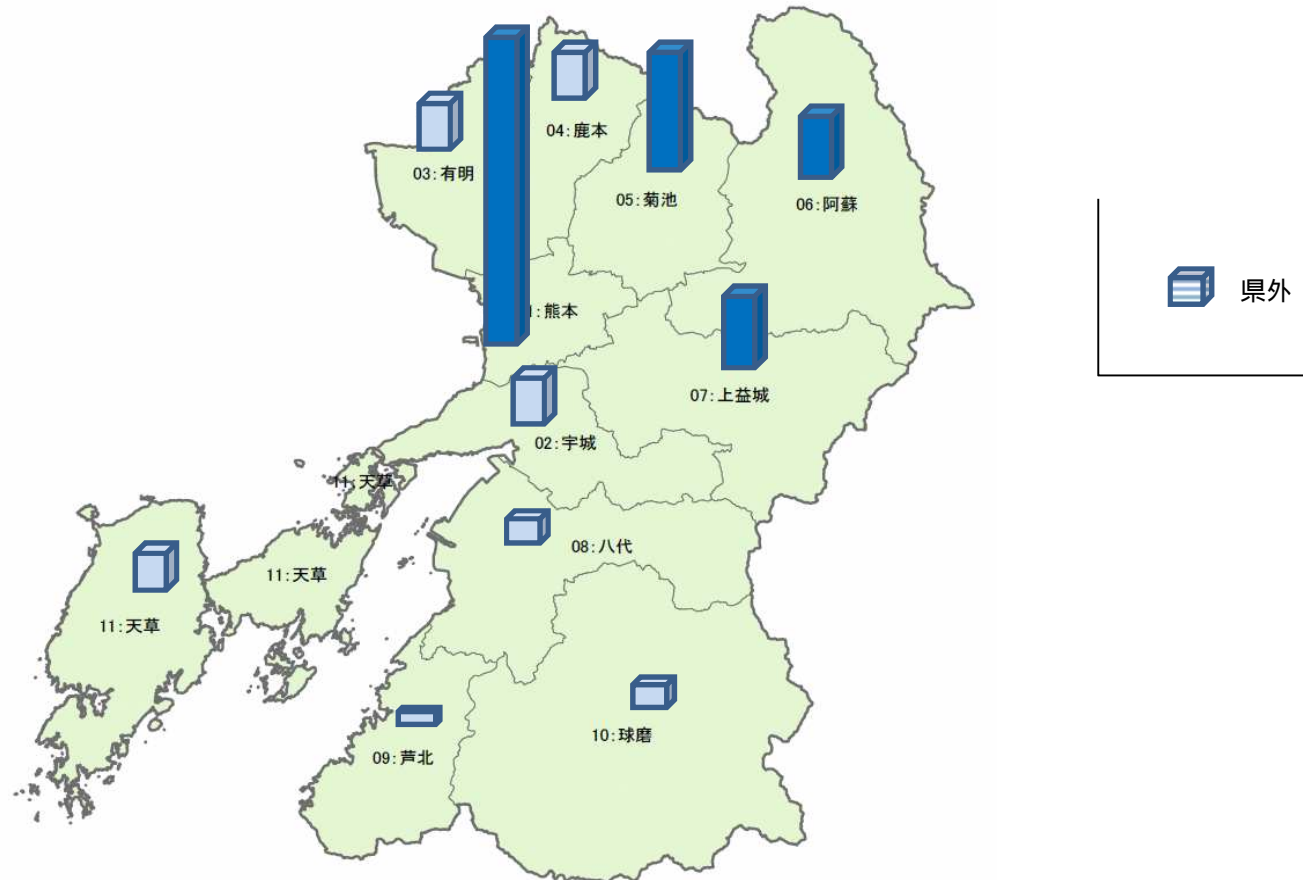
職員数 1396.5人（医師185.5 看護師690.8 専門職182.8 事務337.4）  
（常換）

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

診療圏域

熊本県東部地区（熊本・上益城、菊池等）を中心に県内外から広範に受入



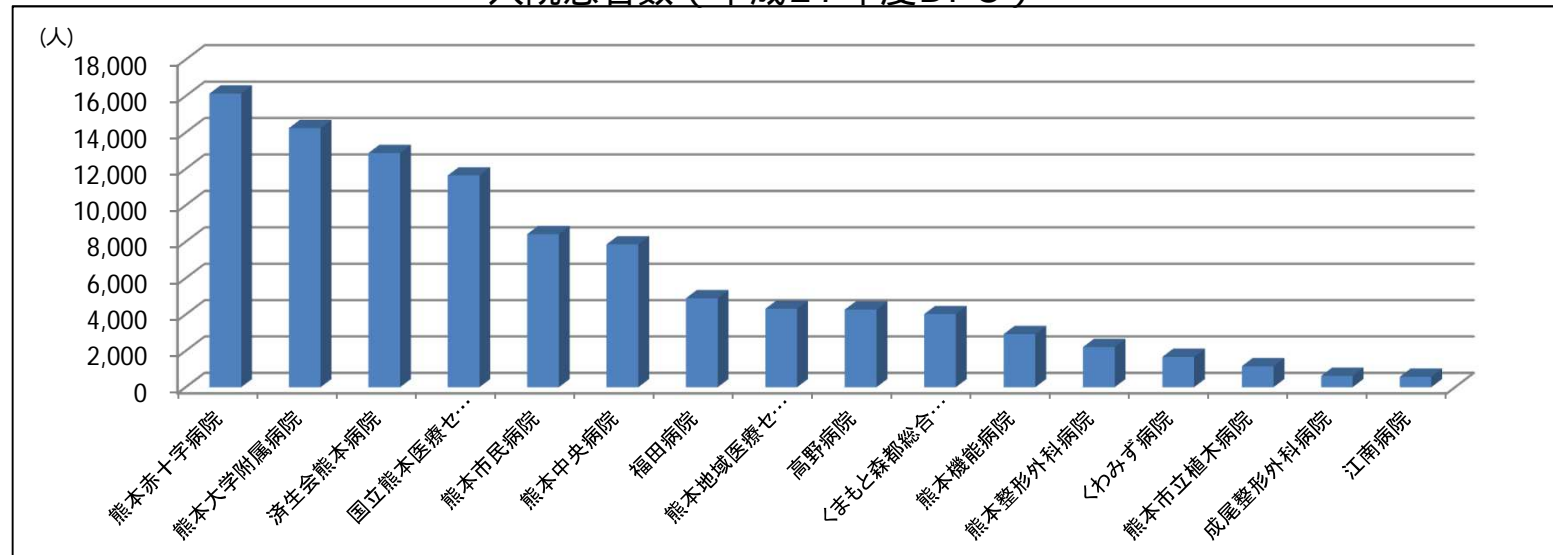
# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

### 診療実績

新入院患者総数 17,953人/年

入院患者数（平成27年度DPC）



平成28年度第4回 診療報酬調査専門組織/DPC評価分科会の資料を基に作成(平成27年度DPCデータ)

入院患者延数 163,182人/年

外来患者延数 307,027人/年 (救急患者数 68,001人/年)

手術症例数 6,212件/年

病床稼働率 101.3%

平均在院日数 9.1日

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

### 診療実績

	熊本赤十字 病院	熊本大学附 属病院	済生会熊本 病院	国立熊本医 療センター	熊本市民病 院	熊本中央病 院	福田病院	熊本地域医 療センター	高野病院	くもと森都 総合病院	熊本機能病 院	熊本整形外 科病院	くわみず病 院	熊本市立植 木病院	成尾整形外 科病院	江南病院	合計
01神経	1,181	760	1,679	929	489	132	2	116	0	35	132	1	58	37	1	28	5,580
02眼科	361	1,391	4	503	426	675	0	0	0	515	11	0	0	0	0	0	3,886
03耳鼻	698	642	50	276	540	44	2	370	0	51	149	0	526	59	0	84	3,491
04呼吸器	2,045	1,310	1,474	947	788	1,559	1	1,243	0	146	54	1	335	210	0	137	10,250
05循環器	1,869	1,166	2,832	851	413	1,266	0	179	1	67	329	0	197	90	0	28	9,288
06消化器	3,642	2,754	3,141	2,329	1,344	1,020	16	1,781	4,012	1,137	32	0	135	451	0	89	21,883
07筋骨格	491	1,079	275	548	431	559	1	21	117	176	846	732	31	25	571	31	5,934
08皮膚	201	428	67	305	194	31	1	45	32	175	76	14	55	3	3	9	1,639
09乳房	154	331	20	35	198	4	0	31	0	606	1	0	1	4	0	0	1,385
10内分泌	260	688	221	347	117	235	0	59	8	26	43	1	117	65	0	18	2,205
11腎尿路	979	921	988	1,297	654	1,628	7	96	21	37	13	1	111	32	0	26	6,811
12女性	1,270	1,304	2	700	1,107	0	3,922	0	19	190	1	0	1	3	0	1	8,520
13血液	498	628	150	868	261	45	11	37	5	572	7	1	15	12	0	10	3,120
14新生児	287	333	45	22	619	26	917	9	1	4	165	7	0	0	1	0	2,436
15小児	498	26	66	87	80	157	10	255	9	25	8	0	20	57	1	15	1,314
16外傷	1,279	275	1,556	1,074	621	201	1	31	0	85	1,019	1,406	42	102	43	77	7,812
17精神	17	15	10	26	5	5	0	2	0	64	4	0	6	3	0	8	165
18その他	406	190	288	494	129	269	6	39	43	111	30	46	24	4	2	18	2,099
合計	16,136	14,241	12,868	11,638	8,416	7,856	4,897	4,314	4,268	4,022	2,920	2,210	1,674	1,157	622	579	97,818

平成28年度第4回 診療報酬調査専門組織/DPC評価分科会の資料を基に作成

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

主な取組み（5疾病・5事業）

事業	医療機関指定と主な取組み
救急医療	救命救急センター、熊本県ドクターヘリ基地病院 (重症外傷、熱傷、急性中毒 他)
災害医療	基幹災害拠点病院、熊本DMAT指定病院
周産期医療	地域周産期母子医療センター
小児医療	小児救命救急センター、小児救急医療拠点病院
へき地医療	へき地医療支援センター
疾病	医療機関指定と主な取組み
がん	地域がん診療連携拠点病院
脳卒中	脳卒中急性期拠点病院
心筋梗塞等の心血管疾患	急性心筋梗塞急性期拠点病院
糖尿病	CKD対策、糖尿病性腎不全症例の腎移植推進
精神疾患	がん患者や救急患者への精神的サポート(精神腫瘍科)
その他	医療機関指定と主な取組み
	地域医療支援病院、腎移植施設 他

総合血管センター

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

28科

### 診療科の構成

#### 内科系部門

内科  
血液・腫瘍内科  
呼吸器内科  
消化器内科  
放射線治療科

#### 救急・災害医療

救急科  
外傷外科部  
国際医療救援部

#### 周産期・小児医療

産婦人科  
小児科  
小児外科

#### 脳卒中・急性心筋梗塞

神経内科  
脳神経外科  
循環器内科  
心臓血管外科

#### 外科系部門

外科  
整形外科  
乳腺内分泌外科  
形成外科  
皮膚科  
泌尿器科  
眼科  
耳鼻いんこう科  
歯科  
歯科口腔外科

#### 中央診療部門

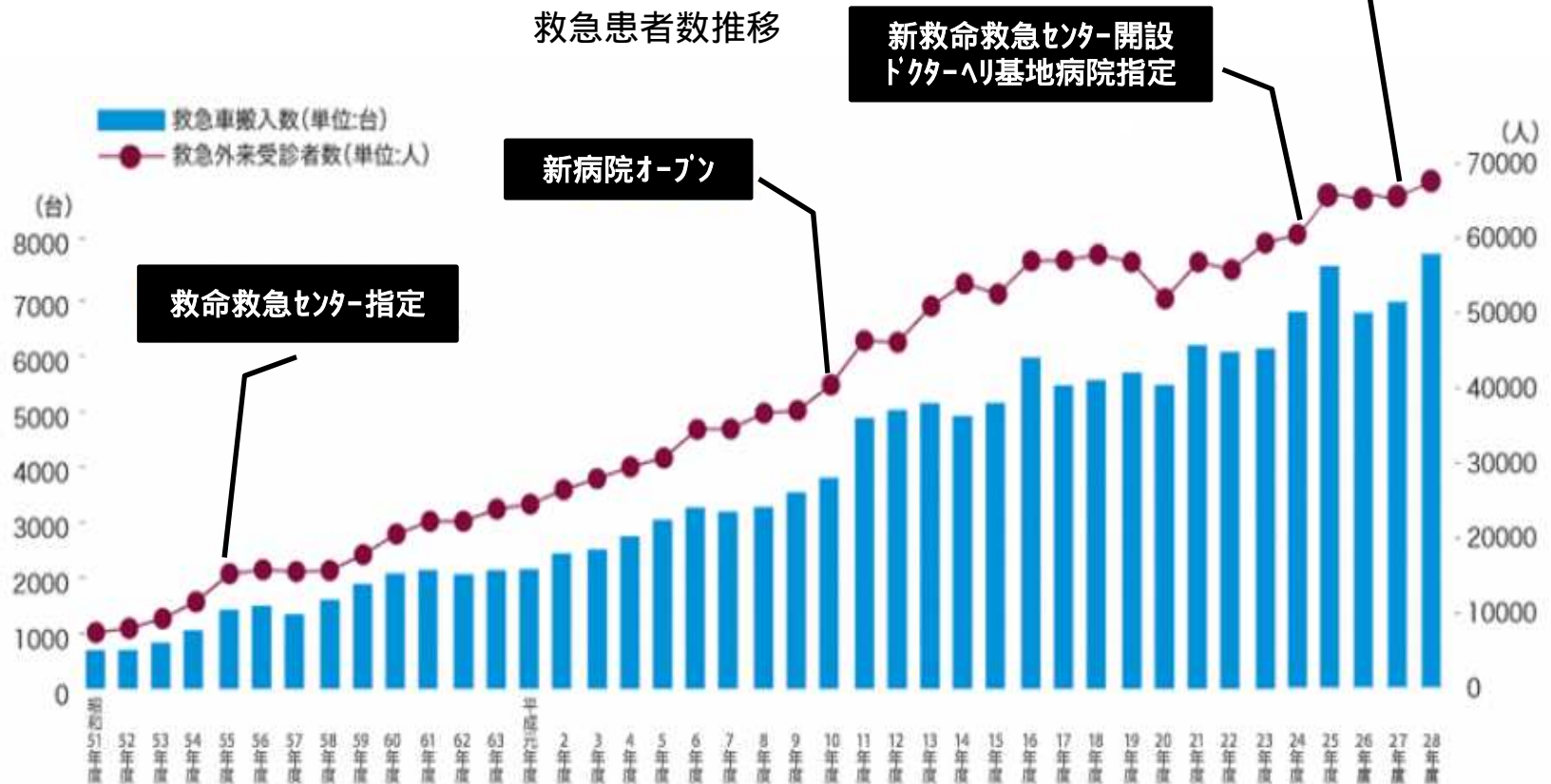
放射線科、麻酔科、病理診断科、リハビリテーション科、精神腫瘍科

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

救急医療

昭和55年 県内最初の救命救急センターに指定





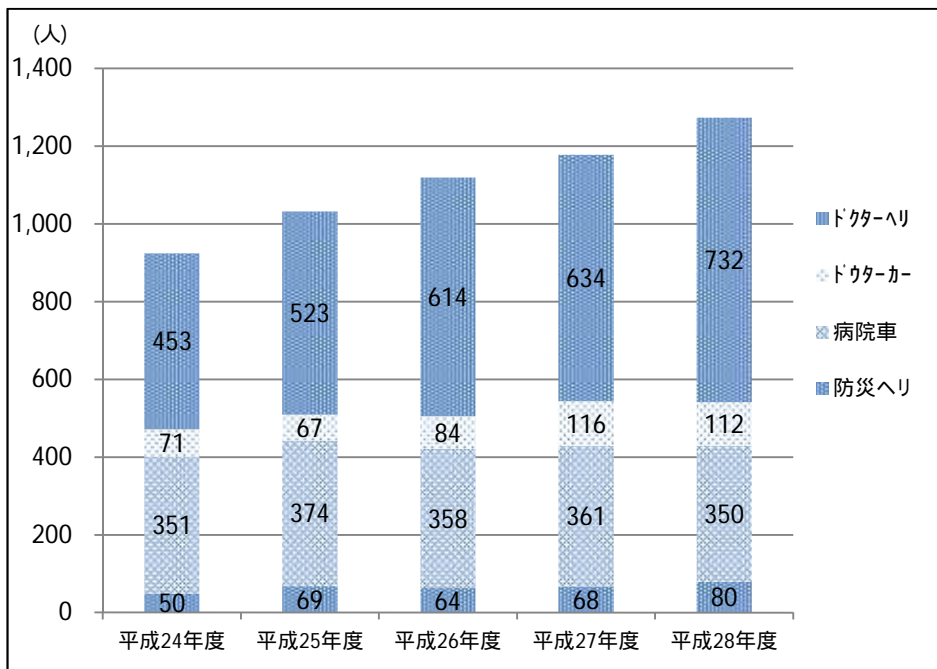
# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

### 救急医療

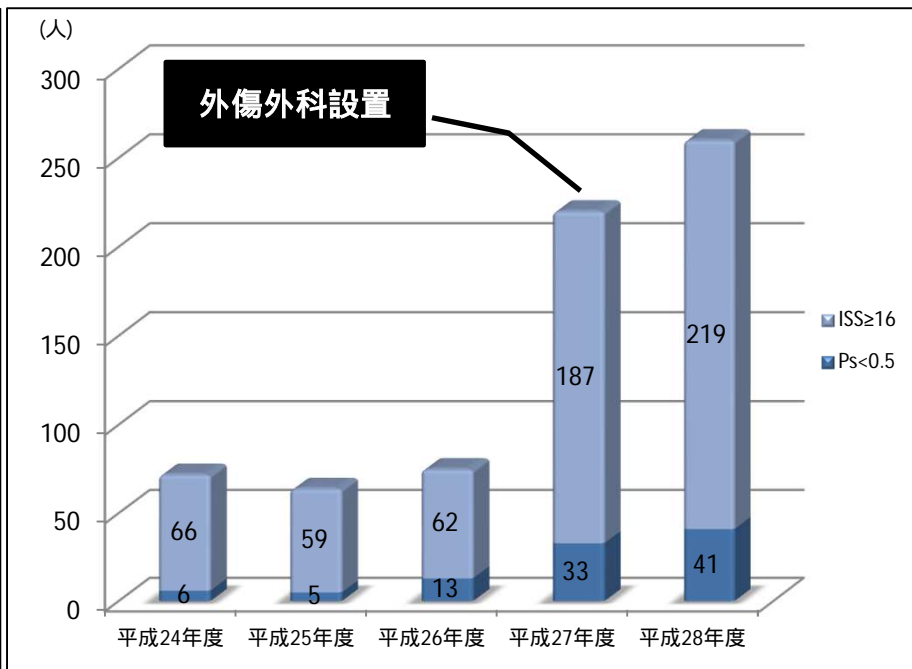
平成24年 熊本県ドクターヘリ基地病院に指定  
平成27年 外傷外科部を設置

ヘリ等搬送件数



熊本赤十字病院作成

重症外傷患者数



熊本赤十字病院作成 (日本外傷データベース症例登録)

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

### 災害医療



救急部門  
救急患者への対応



救命救急センターには災害対応のための準備が整っており、患者が搬送されました。

	Plan	Do	Check	Action
準備期間	緊急事態発生	○	× (確認)	①
搬入エリア	①	× (確認)	○	②
搬出エリア	①	○	○	③
搬出エリア	①	○	○	④
搬出エリア	①	○	○	⑤
搬出エリア	①	○	○	⑥
搬出エリア	①	○	○	⑦
搬出エリア	①	○	○	⑧
搬出エリア	①	○	○	⑨
搬出エリア	①	○	○	⑩
搬出エリア	①	○	○	⑪
搬出エリア	①	○	○	⑫
搬出エリア	①	○	○	⑬
搬出エリア	①	○	○	⑭
搬出エリア	①	○	○	⑮
搬出エリア	①	○	○	⑯
搬出エリア	①	○	○	⑰
搬出エリア	①	○	○	⑱
搬出エリア	①	○	○	⑲
搬出エリア	①	○	○	⑳
搬出エリア	①	○	○	㉑
搬出エリア	①	○	○	㉒
搬出エリア	①	○	○	㉓
搬出エリア	①	○	○	㉔
搬出エリア	①	○	○	㉕
搬出エリア	①	○	○	㉖
搬出エリア	①	○	○	㉗
搬出エリア	①	○	○	㉘
搬出エリア	①	○	○	㉙
搬出エリア	①	○	○	㉚
搬出エリア	①	○	○	㉛
搬出エリア	①	○	○	㉜
搬出エリア	①	○	○	㉝
搬出エリア	①	○	○	㉞
搬出エリア	①	○	○	㉟
搬出エリア	①	○	○	㊱
搬出エリア	①	○	○	㊲
搬出エリア	①	○	○	㊳
搬出エリア	①	○	○	㊴
搬出エリア	①	○	○	㊵
搬出エリア	①	○	○	㊶
搬出エリア	①	○	○	㊷
搬出エリア	①	○	○	㊸
搬出エリア	①	○	○	㊹
搬出エリア	①	○	○	㊺
搬出エリア	①	○	○	㊻
搬出エリア	①	○	○	㊼
搬出エリア	①	○	○	㊽
搬出エリア	①	○	○	㊾
搬出エリア	①	○	○	㊿

#### 救急患者受け入れ状況について

当院では災害対応委員会・作業委員会を中心に、病院全体で災害時多数患者受け入れの体制整備を行っています。患者受け入れの運用については、災害対応マニュアルを作成し、これに基づいて年にも数回の災害訓練を実施している。訓練の際にマニュアル内容の検証や課題の抽出を行い、受け入れ体制の検証を継続してきた。

今回の熊本地震において、救急部門では、言葉・言葉とともに、言葉に最も近い災害拠点病院、救命救急センターとして、多数の傷病者を受け入れ、治療を行った。被災後、相互連携を促すために各エリアを立ち上げ、その役割分担の明確化もエリアに配置し、4月1日までの約4日間を災害モードで対応した。前年度、翌日夕方一旦は災害モードを解除し通常体制に戻したが、その翌朝以降には本業が発生しており、今回2度の体制立ち上げ、受け入れを行ったことになる。特に本業においては、想定していた救命救急

センターでの受け入れができた。その際にもマニュアルに沿って対応できた点、マニュアルどおりにいかなかった点の両方があった。救急部門における役割の検証とともに、この経験を今後のマニュアル改訂、訓練に活かしていく必要がある。ここでは、救急部門各エリアの活動を把握・本業別に検証した。

なお、被災後職員が参集し、各エリアが活動を始めるまでの状況は、以下のとおりである。

#### 状況から参集まで

被災後の院内対応については、災害の規模で災害レベルを設定し、レベルごとにカルテ運用や本館を立ち上げることを想定していたため、レベルの判別が迷いが生じた。被災後、今後は、救命救急センターへの依頼の必要性・災害対策本部立ち上げの指針で災害レベルを決定することにした。また3段階のレベルのうち、レベルⅡ-Ⅲについては災害モードを発生することとしていたが、明確な定義がないまま緊急と判断の宣告を行った

ため、災害モード解除一斉での災害対応終了という誤解を生じた。今後災害モードという文字は使用せず、災害レベルのみを宣言することにした。全館救急については、病院全体で災害発生時の共通認識を持つ方法であったが、実施を忘れていた。今後は、人員患者へ伝達した文言へ変更し、実施を徹底することにした。

当院の災害対応マニュアルでは、被災3日の地震が発生した場合、自らと家族の安全を確保した上で自主参集することとしている。今回は前年度・本業どちらも全職員が約半数が参集し、そのうちの半数は被災後2時間以内で駆けつけた。最初の2時間の参集者が最も多かったため、高レベル参集による受け入れ体制の立ち上げがいかに重要かが分かった。参集した職員は、まず災害ごとに段階より指示している移動がスムーズにできて活動を開始することとしている。今回実際の災害を経験し、想定していた動きと実運用を確認のうえ、災害ごとに移動がスムーズの内容を再確認している。

参集場所は災害対策本部となる救命救急センターとし、

アクションカード配布と職員参集を行ったが、参集した多数の職員が参集し、登録した職員参集を完了し人員調整を行うことはできなかった。今後は、参集場所をスペースにゆとりのある救命救急センター内に変更し、職員参集は医師のみとするようにした。なお、アクションカードについては、救急部に用意し、役割や業務を把握していたが、内容が多くもろいため、災害時に読むことは困難であることが分かった。今後は、内容を簡潔にし、かつ大きく記載することとしている。

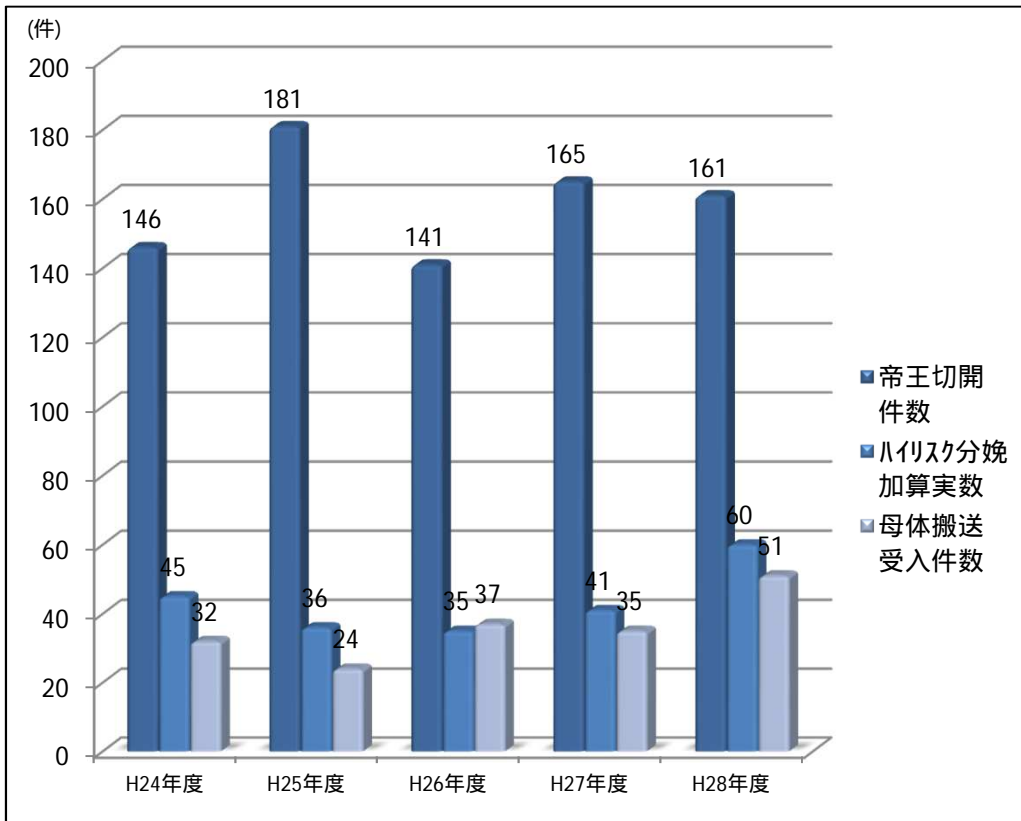
受入エリアについては、前年度救命救急センターが使用可能であったことから、マニュアルどおりの対応ができた。本業では参集が優先したため、病院本部の受け入れとなった。参集後復旧も必要であり、安全のために本業は4月1日正午まで本館で受け入れを行ったが、今後は本業は救命救急センターで受け入れを行うこととし、救急マニュアルどおりに対応することにした。なお、災害時参集エリアについては再検討が必要であり、災害時参集・検閲室・搬送施設・担当職員のストレス等を考慮し、今後決定する予定である。

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

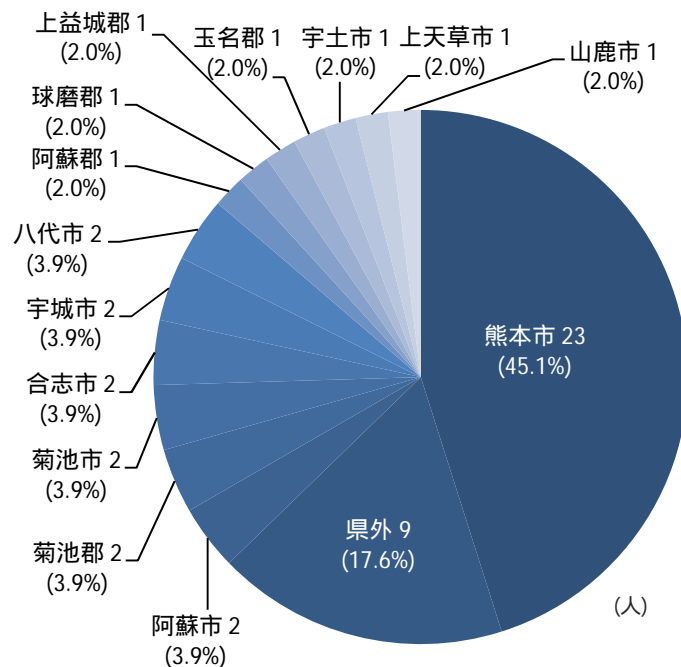
### 周産期医療

周産期救急関連の実績



熊本赤十字病院作成

母体搬送受入患者の住所別内訳(H28年度)



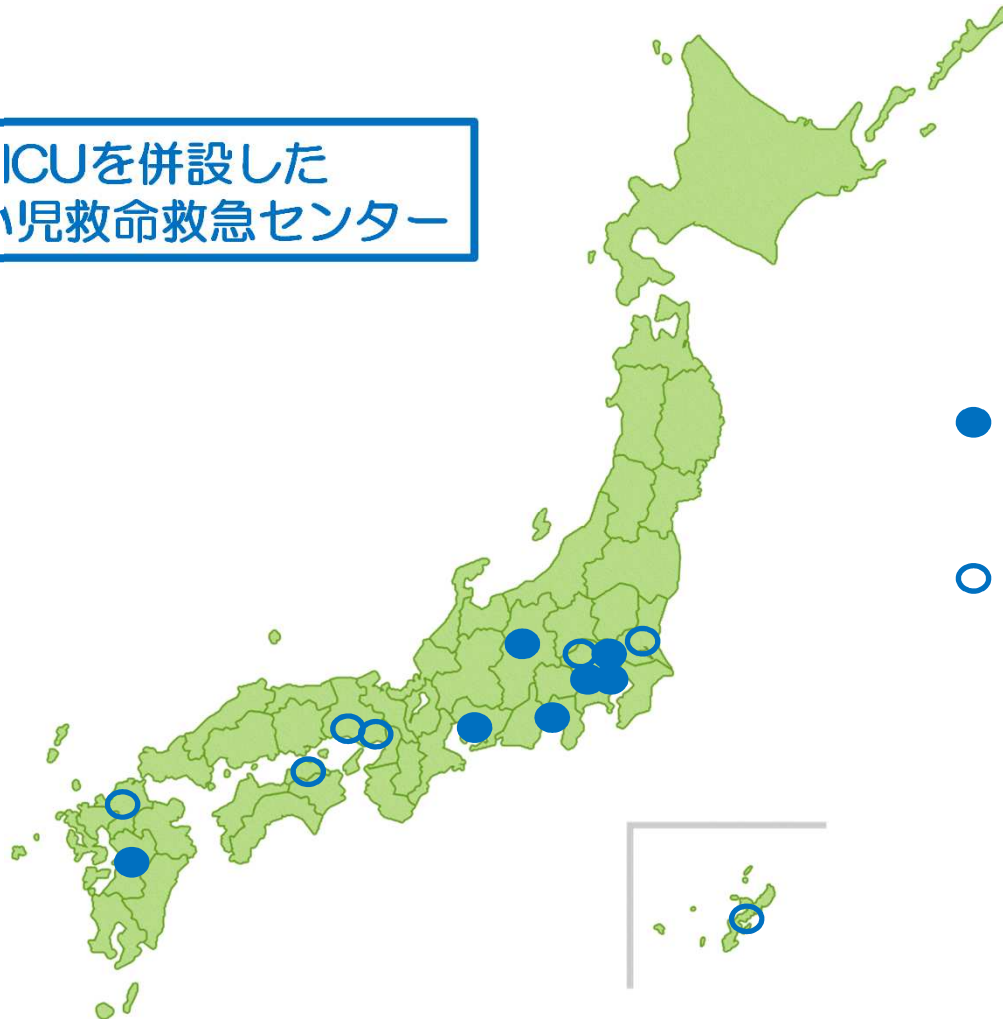
熊本赤十字病院作成

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

小児医療

西日本唯一のPICUを併設した  
小児救命救急センター



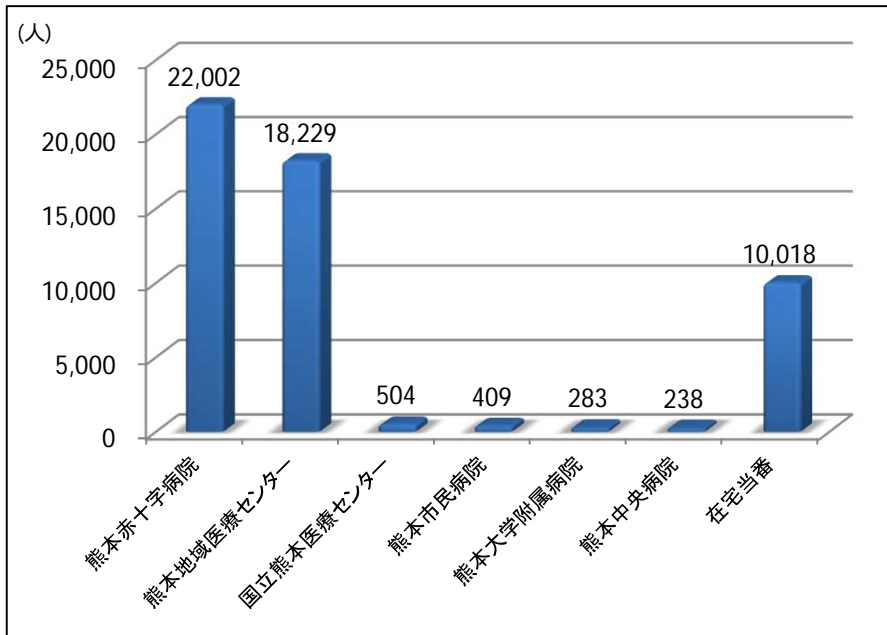
- 小児救命救急センター  
PICU(小児特定集中治療室管理料)
- 小児救命救急センター

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

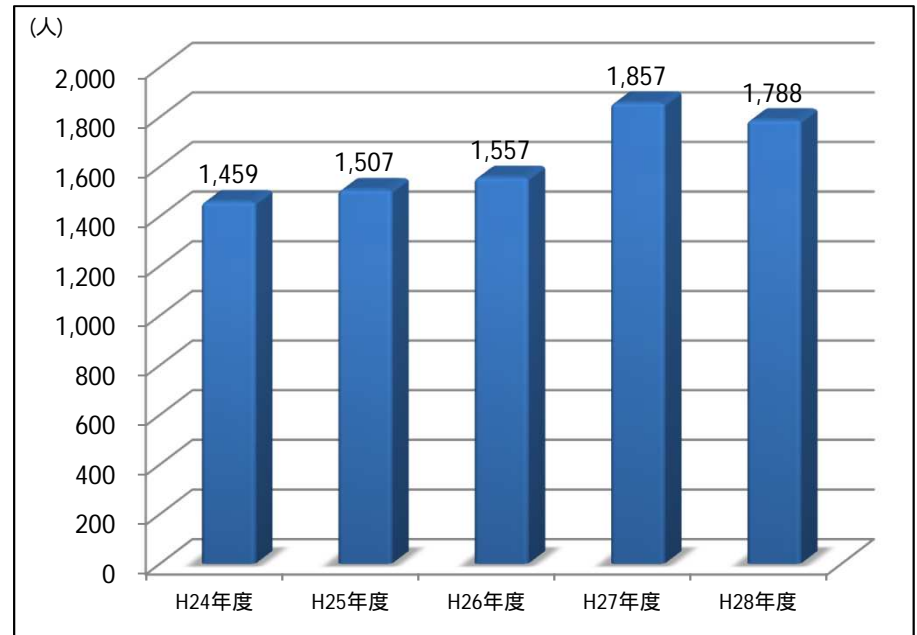
### 小児医療

医療機関別小児科救急患者数



平成29年度熊本市救急災害医療協議会より

PICU入院患者延数



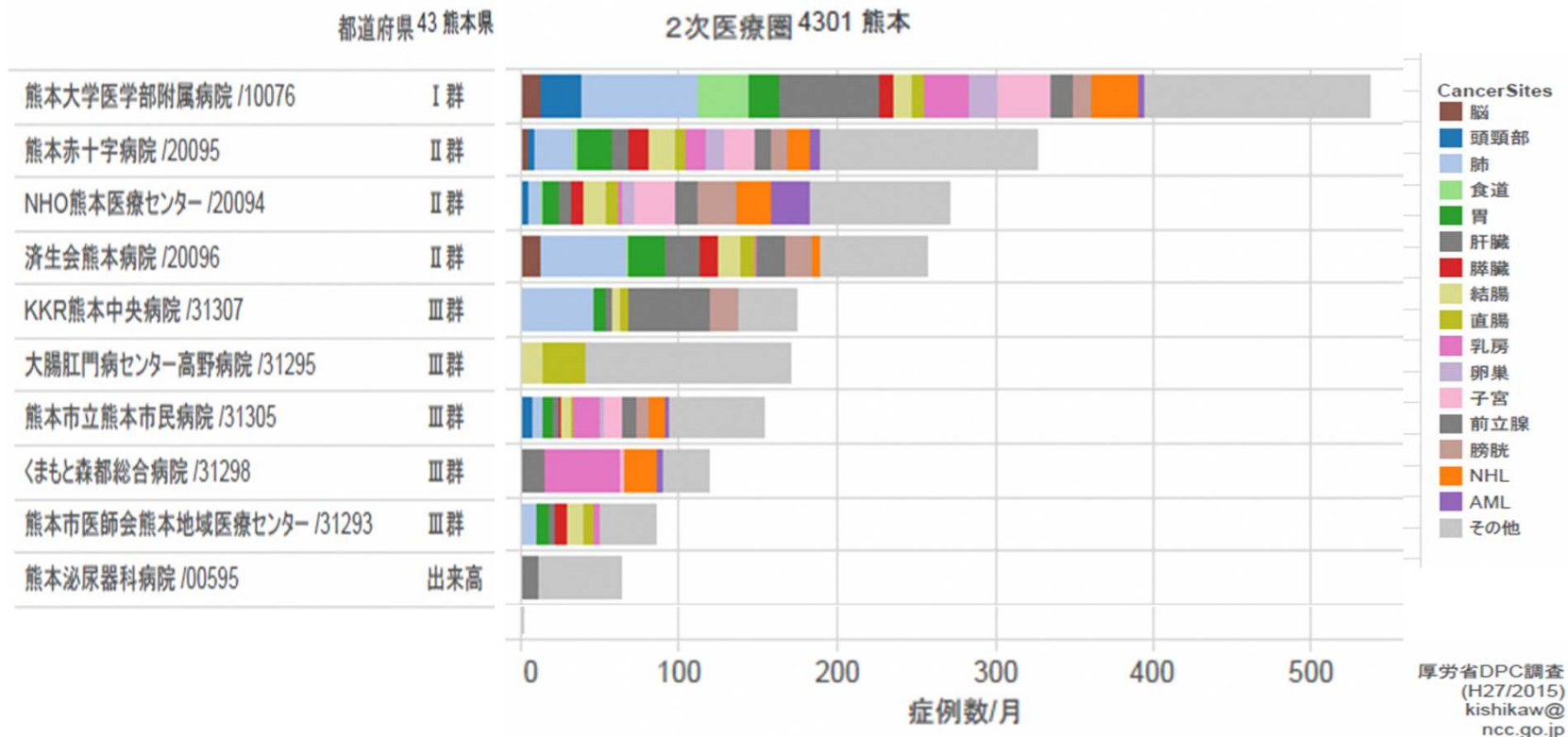
熊本赤十字病院作成

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

がん

医療機関別入院患者数（がん）



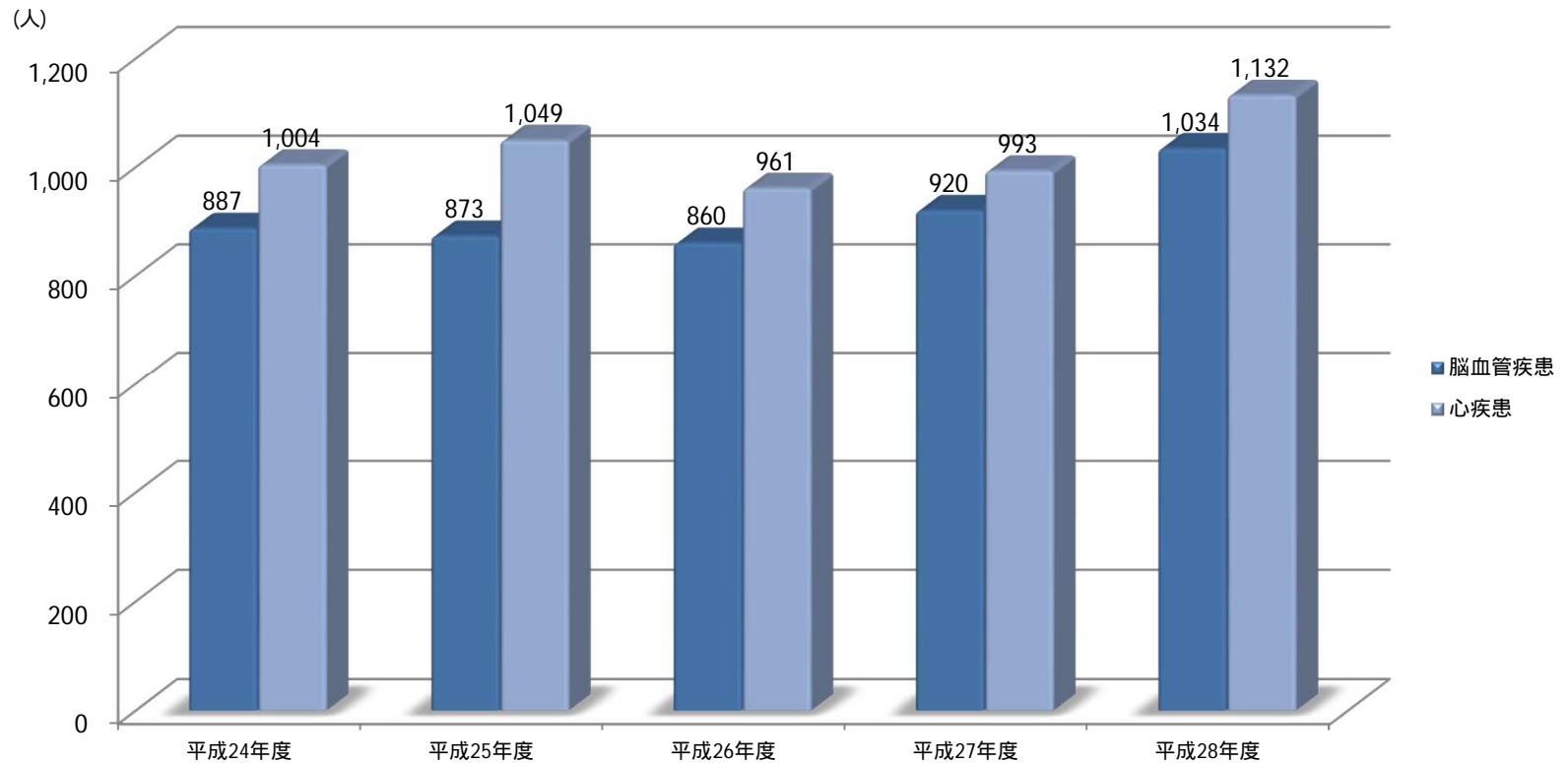
厚労省DPC調査 (H27/2015) [kishikaw@ncc.go.jp](mailto:kishikaw@ncc.go.jp)より

# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

### 脳卒中・心筋梗塞等の心血管疾患

脳・心血管疾患の入院患者数

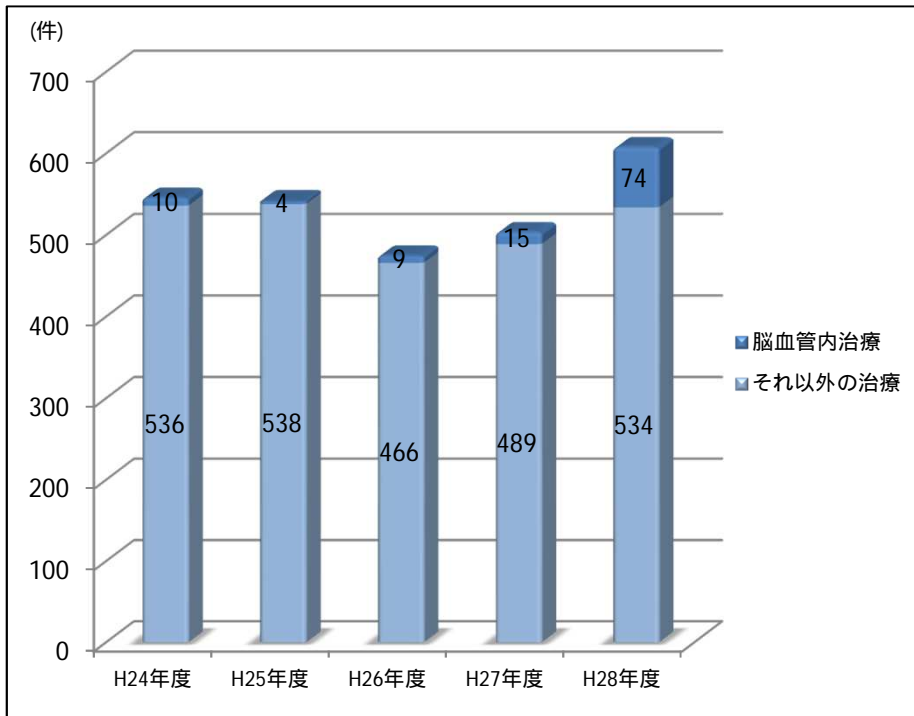


# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の現状】

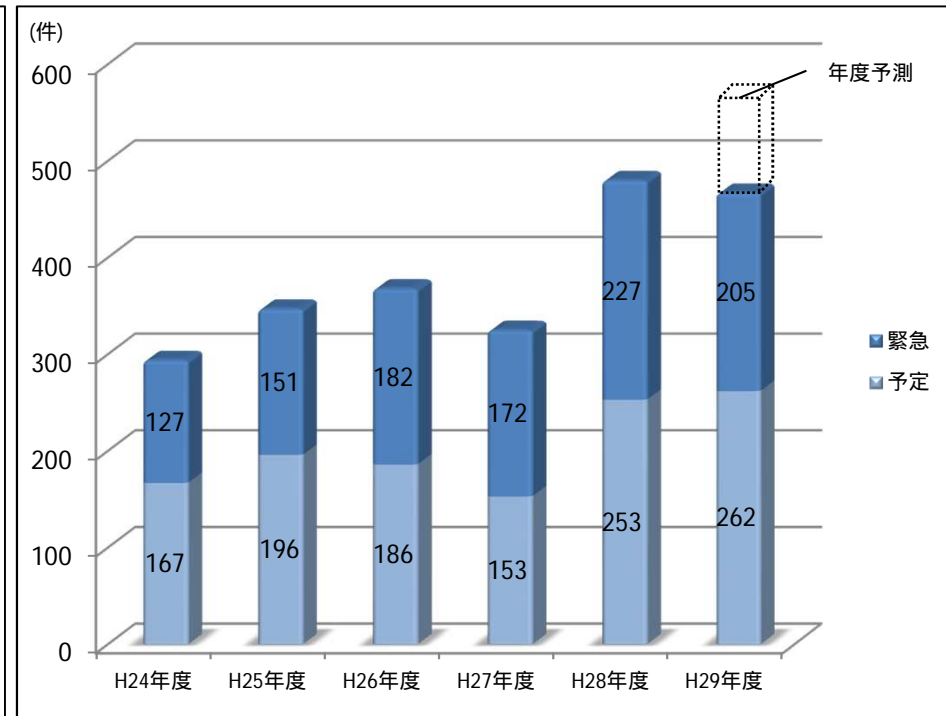
脳卒中・心筋梗塞等の心血管疾患

脳梗塞患者に対する血管内治療件数



熊本赤十字病院作成

PCI (冠動脈インターベンション) 実施件数



熊本赤十字病院作成



# 1 現状と課題

## 【熊本赤十字病院の課題】

### 高齢患者の急増に対する医療提供体制の整備

急速な高齢化による、疾病別医療需要の変化への対応  
(がん、脳血管疾患、心疾患、骨折、肺炎、併存症・合併症を有する患者)

### 医療連携強化による病床確保と不応需の解消

救急重症患者受入れのための病床確保  
各専門診療科における受入体制の見直し  
連携強化によるシームレスなフェーズ移行

### 精神科医療ニーズへの対応

救命救急センターを中心とした、精神疾患を抱えた患者受入体制  
(認知症や抑うつ、小児科領域の精神的ストレス等)

### 病院機能の拡充と災害対応機能の強化

画像や手術部門、総合血管センターを中心とした中央診療部門の拡充  
基幹災害拠点病院として、十分な災害対応能力を備えたソフト・ハードの  
機能拡充

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

高度急性期医療の提供

機能分化と地域包括ケアシステムへの貢献

人材育成と確保

災害医療の強化

## 2 今後の方針

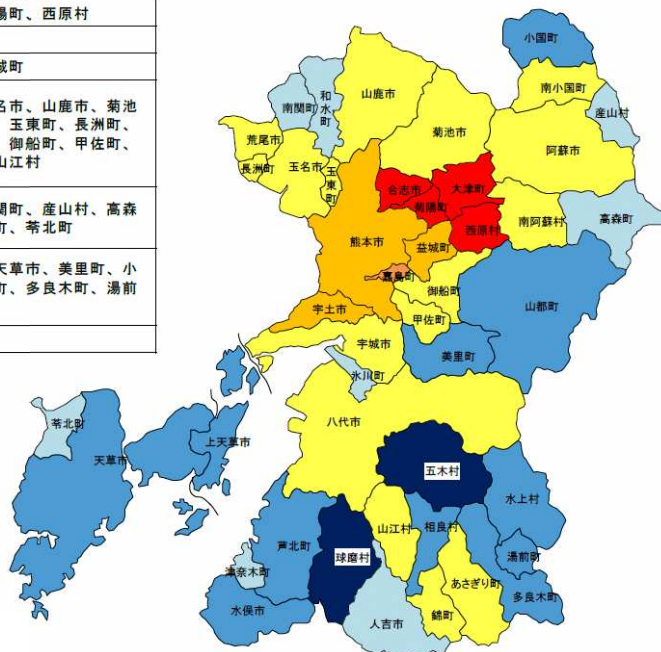
### 高度急性期医療の提供

高齢者の増加と疾病構造の変化に対応し、総合救命救急センターとして、年齢、性別、疾患問わず全ての領域の救急重症患者を全県的に対応する

5 疾病 5 事業を中心とした各領域の拠点病院として、手術や高度専門治療など、多くの医療資源を必要とする超急性期の患者に対応する

県内市町村の人口増減率（2010 年を 100 とした場合の 2040 年の姿）

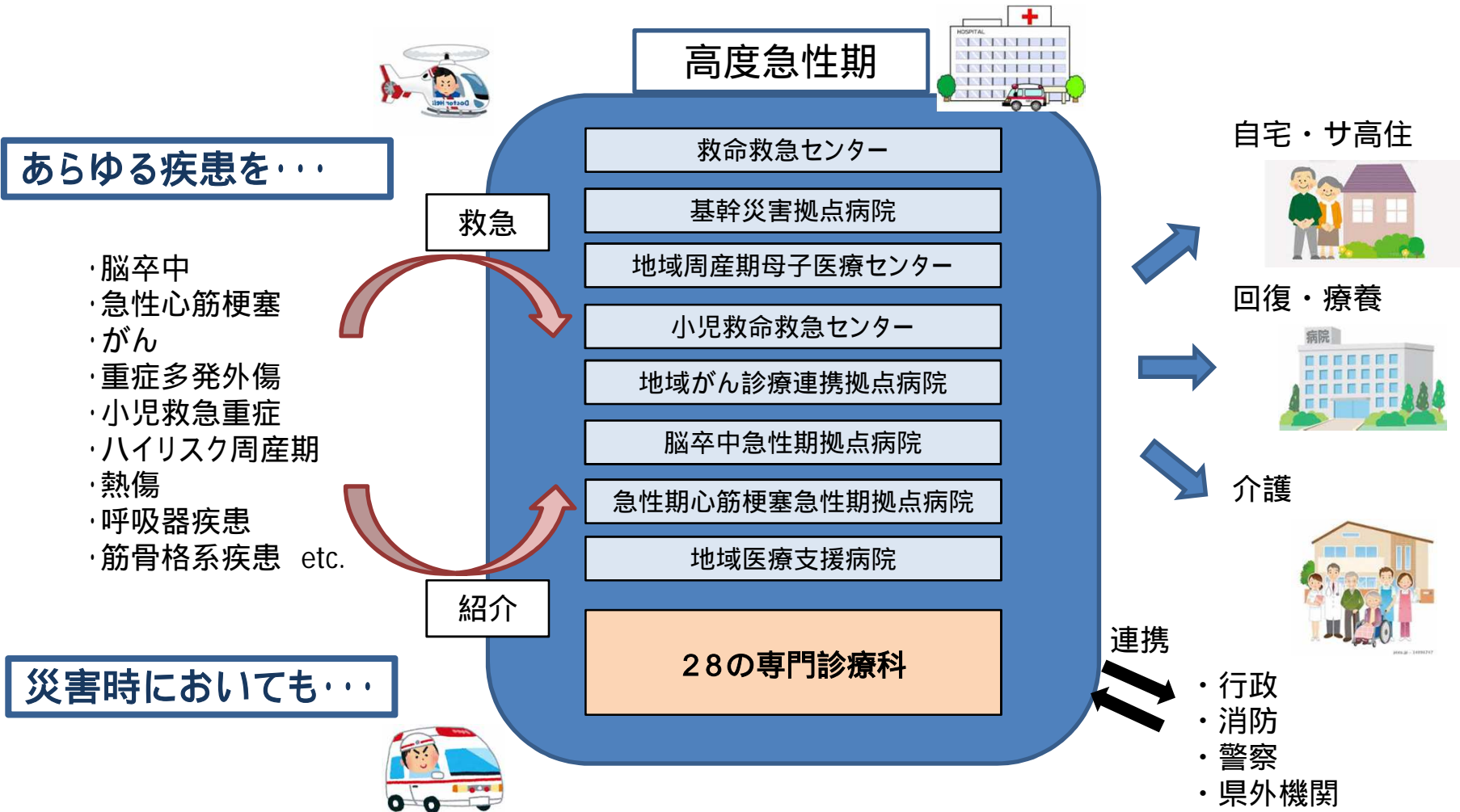
色	区分	該当市町村
赤	100超	合志市、大津町、菊陽町、西原村
オレンジ	90～100	嘉島町
黄	80～90	熊本市、宇土市、益城町
黄緑	70～80	八代市、荒尾市、玉名市、山鹿市、菊池市、宇城市、阿蘇市、玉東町、長洲町、南小国町、南阿蘇村、御船町、甲佐町、錦町、あさぎり町、山江村
青緑	60～70	人吉市、和水町、南関町、産山村、高森町、氷川町、津奈木町、葦北町
青	50～60	水俣市、天草市、上天草市、美里町、小国町、山都町、芦北町、多良木町、湯前町、水上村、相良村
紺	50以下	五木村、球磨村



熊本県人口ビジョン(平成27年10月)より

## 2 今後の方針

### 機能分化と地域包括ケアシステムへの貢献



## 2 今後の方針

### 人材育成と確保

高度化する医療やニーズ、機能分化に則した地域医療を提供すべく、院内外での研修を強化し、県全体の医療レベルの底上げに貢献する  
(臨床研修指定病院、専門研修基幹病院 等)

高度専門医療を追求し、高いレベルで今ある最善の医療を提供する



## 2 今後の方針

### 災害救援の強化

災害時における超急性期のあらゆる疾患に対応するとともに、関係機関と連携するなど、基幹災害拠点病院の役割を果たす

熊本地震を踏まえ、平時からの関係機関との連携や訓練の実施を通して、災害に強い地域づくりに貢献する



### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その1 】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期	490床	490床	490床
急性期			
回復期			
慢性期			
その他			
合計	490床	490床	490床

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

急性期の基幹総合病院として、地域の方々が安心して暮らせる社会に貢献するため、「人道・博愛・奉仕の実践」を基本理念に良心的医療を展開してきた

1975年の開設以来、県内最初の救命救急センターとして、24時間365日、高度急性期医療を必要とする救急重症患者を全科で受け入れてきた

総合病院として幅広い疾患と重症患者（脳卒中、心血管疾患、重症外傷、がん小児重症など）の先進高度化に対応すべく、多数の診療科、医療スタッフ、医療設備、連携体制を整備してきた

**今後も当院が役割を果たしていくためには、高度急性期機能の病床数の現状維持が必要である**

**熊本・上益城医療圏のみならず、熊本県全体の高度救命医療を担うために、負託された高度急性期病床を有効に活用していく**



### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【 診療科の見直し 】

	現時点 (平成30年1月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、血液・腫瘍内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、乳腺内分泌外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、救急科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、精神腫瘍科	同左	救命救急センターとしてあらゆる領域の疾患に対し、高い専門性をもって対応するため
新設		リウマチ・膠原病内科 腎臓内科 糖尿病内科	高度な専門医療に対応するため
廃止			
変更・統合			

# 3 具体的な計画

## (2) 数値目標

	現時点	2025年
病床稼働率	102.3% (平成28年7月1日～平成29年6月30日)	103.0%
紹介率	78.8% (平成29年12月時点)	80.0%
逆紹介率	99.7% (平成29年12月時点)	100.0%

### 3 具体的な計画

## (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

### 【取組みと課題】

病床稼働率 紹介率・逆紹介率

#### 新入院患者の確保

救急、紹介による不応需解消のため、各診療科の受け入れ体制を見直す  
連携強化により、紹介患者数の増加を図る

#### 病床の確保

退院に向けた早期介入と連携により、早期退院を促す  
患者状態に応じた適切なベッドコントロールにより、限られた病床を有効  
活用する

#### 逆紹介の徹底

患者への適切な説明と紹介先斡旋により、症状安定後の逆紹介を推進

#### 関係機関との信頼関係の向上

医療・介護施設との意見交換会や連携の会などの充実（顔の見える連携）